

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	楊 靈琳
所属機関名	教育推進機構 基盤教育センター
職位	准教授
在籍年	1 年

教育の責任

教育推進機構に所属し、主として初修外国語科目である中国語（初級及び中級クラス）の授業を担当している。理工系学生を中心とする初学者に対して、中国語の発音・語彙・文法を基礎から段階的に指導し、中国語による基本的なコミュニケーション能力を育成することを教育上の責任としている。

また、人文社会系教養科目「人間を読み解く A（中国文学）」を担当している。中国語と中国文学の学びを相互に関連づけながら、中国語を履修して中国文学や文化に興味を持った学生が文学を履修する場合や、その逆に中国文学への関心から中国語を学ぶ学生も多く、両科目が学生の学びを相互に広げる役割を果たしている。

さらに、通信教育科目「文化を読み解く B」を担当し、言語・文学・文化を通して、人間や社会を多角的に理解するための教養教育にも取り組んでいる。

教育の理念

私の教育理念は、中国語および中国文学の教育を通して、専門分野に加え、国際的な視野、実践的なコミュニケーション能力、異文化理解を備え、グローバル社会において多様な文化的背景を持つ人々と協働できる人材を育成することである。

語学は、単に語彙や文法を習得するためのものではなく、人と人をつなぎ、多様な文化や価値観を理解するための重要な手段である。そのため、知識の習得にとどまらず、自ら考え、主体的に学び、他者と対話しながら実践的なコミュニケーション能力を育むことを重視している。

また、文学教育では、中国近現代文学を通して、中国社会・歴史・文化への理解を深めるとともに、多様な価値観や人間の生き方について考察する力を養うことを目指している。さらに、異文化や他者への理解と尊重を深め、多様な背景を持つ人々と協働できる姿勢を育むことも重視している。

特に理工系学生には、専門知識に加え、国際的な視野、異文化理解、実践的なコミュニケーション能力が求められる。そのため、主体的に学び続ける姿勢と、グローバル社会で活躍できる高度な異文化コミュニケーション能力を備えた理工系人材の育成を教育の根幹としている。

教育の方法・方針

中国語の授業では、発音や基礎文法を丁寧に指導するとともに、ペアワークや会話練習、小テストを取り入れ、学生が主体的・継続的に学習できるよう工夫している。また、本学の学生の特性を踏まえ、音声認識機能を備えた翻訳・音声入力アプリ「VoiceTra」を活用し、大人数の授業においても学生一人ひとりが自身の発音を客観的に確認し、主体的に改善できる学習環境を整えている。デジタルツールを活用することで、学習意欲の向上や、発話に苦手意識を持つ学生への支援にもつながっている。こうした取組を通して、学生が中国語学習に主体的に取り組む姿勢を育むとともに、大学卒業後も社会の変化に対応しながら、自ら学び続ける力を養うことを目指している。

文学の授業では、中国文学作品を通して中国社会・歴史・文化への理解を深めるとともに、異文化や他者への理解と尊重の姿勢を育むことを重視している。授業では、作品や文化現象を一方向的に解説するだけでなく、学生自身が作品を読み、自らの考えや感想を発表し、他者と

意見を交換する機会を積極的に設けている。また、自分とは異なる意見にも耳を傾け、それぞれの考え方や価値観を尊重しながら議論することを通して、多様な視点から物事を考える力を養うとともに、自らの個性や考えを主体的かつ論理的に表現する力を育成している。さらに、自分の意見の意義を認識すると同時に、他者の考えの価値にも気づき、互いに学び合う姿勢を育むことを大切にしている。こうした取組を通して、学生が異文化への理解を深め、他者を尊重し、多様な価値観を受け入れる姿勢を育むことは、グローバル社会で活躍できる人材の育成につながる重要な基盤であると考えている。

教育の成果

中国語の授業アンケートでは、「授業の質が高い」「中国語に興味を持てるようになった」「楽しく学ぶことができた」「発音練習が実践的で分かりやすかった」などの肯定的な意見が多く見られた。また、「中国語をもっと学びたい」「後期の中国語科目も履修したい」といった声もあり、中国語学習への関心や継続的な学習意欲の向上がうかがえた。さらに、VoiceTra等を活用した個別練習により、人前で発話することに苦手意識を持つ学生も自分のペースで発音練習に取り組めるようになり、授業内で積極的に発話する姿勢が徐々に見られるようになるなど、主体的な学習態度の育成にも一定の成果が見られた。また、中国語学習をきっかけとして中国文学への関心を深め、中国文学関連の授業を履修する学生も少なくなく、中国語学習を契機とした学習意欲の広がりも見られた。

文学の授業では、毎回の授業で学生に感想や意見を記述させることにより、作品理解だけでなく、学生自身が中国社会や歴史、文化について主体的に考える機会を設けている。学生の感想には、「文学作品を通して中国社会への理解が深まった」「文学が社会に重要な役割を果たしていることに気づいた」「SF小説が現代社会と密接に関わっていることを実感した」などの意見が見られた。また、文人たちの努力が差別や偏見の軽減に関わってきたことに気づき、「現在の自由で平等な社会を大切にしなければならない」と再認識する学生も多く見られた。さらに、「普段の生活においても、すべての人に対して平等な姿勢で接することを常に心がけなければならない」と述べる学生も少なくなかった。このように、文学作品を読むことは、異文化や他者への理解を深めるだけでなく、社会や歴史を多角的に捉え、自分の考えを主体的に表現する力の育成にもつながっている。さらに、自分とは異なる意見にも耳を傾け、他者の価値観を尊重しながら学び合う姿勢が見られるようになった。

今後の目標

今後は、これまでの教育実践を基盤とし、中国語教育と中国文学教育をさらに有機的に結び付けた教育を発展させていきたいと考えている。語学教育では、AIを活用した教育手法を適切に取り入れながら、学生一人ひとりが主体的に学び、大学卒業後も継続して学び続ける力を育成できる教育環境の充実を図りたい。また、学生の学習意欲や理解度に応じた指導方法を工夫し、より効果的な教育方法の改善にも継続的に取り組んでいく。

文学教育では、中国文学を通して中国社会、歴史、文化への理解をさらに深めるとともに、多様な価値観を尊重し、自ら考え、他者と対話しながら主体的に学ぶ姿勢を育む教育を一層充実させたい。また、中国語と中国文学の相互連携を強化することで、学生の知的関心を広げ、語学と文学を往還しながら学びを深められる教育を目指していく。

これらの教育実践を通して、専門分野に加え、国際的な視野、実践的なコミュニケーション能力、異文化理解を備え、グローバル社会において多様な文化的背景を持つ人々と協働できる理工系人材の育成に引き続き貢献していきたいと考えている。

根拠資料

2025 年度春学期秋学期、中国語 1・中国語 2・中国語 3 シラバス、講義資料、授業アンケート

2025 年度春学期秋学期、人間を読み解く A（文学）シラバス、講義資料、授業アンケート